

【樹木の部屋】

ヤナギバルイラソウ(キツネノマゴ科ルイラソウ属 Ruellia simplex)

和名：ヤナギバルイラソウ(柳葉ルイラ草)

別名：ムラサキイセハナビ(紫伊勢花火) **英名**：Mexican petunia

シソ目 常緑低木 **原産地**：メキシコ

花言葉：正直、勇気と力、愛らしさ、魅惑 **花の色**：紫



← 写真-1 ヤナギバルイラソウ

撮影日：2024年10月13日

撮影場所：大和郡山市郊外の地区公園にて

撮影者：M さん



← 写真-2、3 ヤナギバルイラソウの花

撮影日：2024年10月13日

撮影場所：大和郡山市郊外の
地区公園にて

撮影者：M さん



← 写真-4 ヤナギバルイラソウの茎と葉

撮影日：2024年10月13日

撮影場所：大和郡山市郊外の

地区公園にて

撮影者：M さん

近くにある地区公園の花壇で見かけました。昨年までは見かけ無かったのですが、近所の方が植えられたものだと思います。

道路沿いでも、たまに見られるそうですが、春先から秋の終わり頃まで長い期間、鮮やかなかわいい花を咲かせます。朝、開花して夕方になると雌蕊を残して、花がポトリと落ちる一日花ですが、翌朝には、また次々と開花するので、長く花を楽しむ事ができます。

ヤナギのような細長い葉の脇から伸びた花柄の先に、先が5つに避けた漏斗形の薄い青紫色の花を咲かせます。花径は5cmほどで花卉には多数の皺が見られます。種が熟すと避けて種が周囲に飛散します。茎は堅く、紫が掛かっています。草の名が付きませんが、木の仲間です。観賞用として導入されたようですが、乾燥した路面の小さな隙間や河川などの湿地に至る幅広い環境下で雑草化しているそうです。

<ちょっと一言>

* ヤナギバルイラソウ

- ・環境省の「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」には、小笠原や南西諸島へ定着段階の「その他の総合対策外来種」に挙げられています。

- ・日本には沖縄経由で1970年頃に持ち込まれ、暖地を中心に自生する帰化植物となりました。繁殖力の高さと外来種であることから雑草として扱われ、現在は駆除対象の植物となっているそうです。